

瀬戸内トラストニュース

96年 8月

環瀬戸内海会議

編集・発行/ 編集委員会

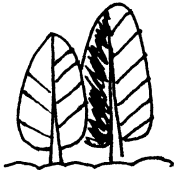


立木ボランティアで仮設住宅に  
苗木を贈る('96.3.17 神戸)

〈立木ボランティア〉  
兵庫県南部地震の被災地に立木を  
贈ろうとの呼びかけに 302口  
(¥453,000)のお申込みがあり、  
約500本の苗木を125世帯の方々  
にお届けすることができました。  
お礼のお便りもいただきました。  
樹々を仲立ちとして、新しい交流  
が生まれています。(1,2ページ参照)

一昨日は 植木をお送りしました。  
ありがたうございました。 植木が届いてすぐ  
鉢や土を買ったに行きました。 おかげでベラン  
ダからいんに春めいて、賑やかにになりました。  
緑が多ければやはり心が和みます。  
知人二人には「えーだれをおすすめ合いました。  
近所には仮設住宅が七百戸余あります。  
さらにお届けするつもりです。  
本当に心厚 昔には感謝してあります。  
まだ、グリン場の木に礼もつけることでお返  
ししたいと思います。 急ぎ御礼まで。 4.10

〈神戸市垂水区小林良宣さんより〉



## 立木ボランティアの1年をふりかえって



(神戸) 畑 英理

昨年(2011年)の6月4日、環瀬戸内海会議の第6回総会で「震災立木ボランティア」が発足してから、1年あまり経ちます。

傾いたビルや電柱、焼け跡に垂れ下がった電線、はじけ飛んだ敷石、それらの中をやみくもに歩き回っていた昨年の冬、倒れた家の屋根と塀の間からツバキの赤い花が咲き続けているのを不思議な感動で眺めたものです。また、被災したオーナーから寄せられた手紙にも、「木は倒れなかった」という同様の感慨が、多くありました。

そのような中でスタートした「立木ボランティア」ですが、“被災地に緑を”という呼びかけに応じて、たくさんの方が基金を送って下さいました。一方、被災された方からも「庭に木が欲しい」「焼けてしまった庭木を植え直したい」などという電話がいくつも寄せられました。

神戸で、申し込み電話の窓口を受け持った私の仕事は、いつ頃、どんな樹種を、何本位希望か、ということを知ることから始まりました。それをまとめて、副代表の三木さん(香川県)に連絡し、実際に苗木を調達したり、配送したりするのは、三木さんたちの仕事、という手順になっていました。

電話受け付けを始めて気づいたのは、木を送るのは普通の物を送るのとは意味が違うということです。まず、いつ頃送れるか訊ねる事で、図らずもその方の家や生活の再建の見通しを、伺うことになります。

「自宅は全焼して、今は仮設住宅に住んでいますが、8月にはもと住んでいた所に帰ります」とか、

「大阪に避難して来ていますが、来年の春に、神戸の方へ木を送って下さい」とか、または、たいした被害はうけなかったとか、被害の程度やいまどんな状態かといったことまでお聞きしないと、発送時期が決められません。

それからまた、町中で建て込んでいて落葉樹はだめだとか、記念に大切に育てるので大きくなる木が欲しいとか、全壊した家に山茶花の大木があったので、やはり山茶花が欲しいとか、実に様々な樹種の希望もありました。

こんな事を伺いながら、お会いした事もないその方と思いがけずお話を深めることもあり、その方の暮らしや、思い入れ、願い、というものにまで触れる様な気がする事もありました。電話で申し込まれた方も、木を育てることで誰かと気持ちを通わせたい、と思って下さったようでした。

'95年の秋から'96年春の5回に分けて、三木さんが苗木を仕入れたり梱包したり発送したり、一番手の掛かる所を受け持ってくれました。

特に、神戸市垂水区の仮設住宅に「苗木プレゼント」に出かけたのは、私たちにとっても楽しいことでした。合計250本の苗木や花をトラックに積んで、山口、広島、香川、などからメンバーが集まり、仮設住宅に住んでいる方と一緒に鉢に植える作業をしました。

つい先日、その仮設住宅の前を息子と通りかかりました。プレゼントした苗木に混じって、様々な花や野菜が実っています。見とれていると、手入れをしていた方がミニトマトを切って、追いかけるようにして下さいました。その鈴なりになった真っ赤なトマトの房は清々しく冷たくて、両手に余る程大きなものでした。

「立木ボランティア」に私たちが託した気持ちも、このように受けとめてくれる人があって、人から人へ伝えられていくのですね。

発送した500本の苗木が被災地で育っていくことに思いを馳せつつ。



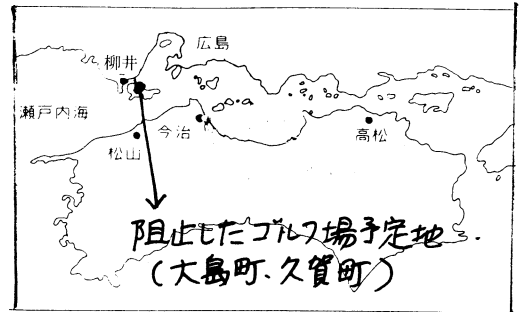
苗の育て方アドバイス（三木）  
神戸市垂水区の仮設住宅で

〈立木ボランティアスタッフ〉  
原戸・畑・三木



# 立木オーナーの皆さん、ありがとう！

## ふるさとゴルフ場阻止 — 先手必勝の極意 —



ふるさと大島の自然を愛する会・代表  
河村保郎（山口県大島郡久賀町椋野）

1991年に阻止運動を始めてから、5年後の今年5月に、私どもは終結宣言を致しました。ご協力頂いた「環瀬戸内海会議」並びにオーナーの皆様には厚くお礼を申し上げます。

この活動を通じての体験をとりまとめ、現在運動の真只中にいられる方々のご参考になればと願っています。

### ◎先手必勝のこと

「開発情報を知ったら、行政当局や業者に抗議する」のが正攻法です。しかしそれは相手に警戒心を与え、対応策を講じさせることとなります。私どもは隠密裏に「立木トラスト」を準備し、実施の前日に折込ちらしを町内に配布しました。寝耳に水の行政側は驚き、中止を要請してきましたが、断固拒否しました。

### ◎仲間意識が勇気を生むこと

地域で反対運動をやっていると、圧力がかかったりして不安になったり落ち込んだりすることがあります。ところが環瀬戸内海会議の会合に出席すると、みんなが頑張っている状況を知り、「よしやろう」という気分になります。

### ◎情報・戦法・戦術を入手すること

「立木トラスト」という有効で、あまり金のかからぬ手段があり、しかもオーナーをお世話下さる「環瀬戸内海会議」という組織があることを知り、加盟すると同時に研修会や総会に参加させてもらい、各地の活動報告を聞きながら種々の戦術を知りました。

### ◎マスメディアを利用すること

テレビ、新聞に度々登場するよう、「トラスト」も小刻みに数回実施しました。そのうち1度は「環瀬戸内海会議」の支援を受け、山田国廣先生や阿部代表をはじめ約60人のご参加を頂き、地域住民も交えて盛り上がりました。

### ◎むすび

我々の活動よりも、バブル崩壊がゴルフ場撤退につながったと思いますが、「トラスト」の結果、開発業者が用地取得に消極的になったことが、業者の損害も少なく撤退を容易にしたと考えています。

## これまでの六年とこれからの六年

-第7回 環瀬戸内海会議総会 in 岡山('96.7.6~7)-

地域開発と自然を考える住民の会 山本 安民

'96年7月6日、7日の二日間、岡山県邑久町、岡山勤労者いこいの村大平山で開催されました。

年一回の顔見せ興行（七月七日は、おりしも「七夕」なので～～す）で、各地で頑張ってきた仲間の本音のぶつかり合いで、「元気をもらおう」という、いつもながらの総会であった。立木トラスト → 立木バンク → 阪神大震災を経験する過程での「立木ボランティア」という、環瀬戸らしい「手だて」で、リゾート・ゴルフ場開発にストップをかけ続けた6年をふりかえり、現状を「環瀬戸」という時空間で分析するという大きなテーマをもった会議でもあったが、この点での深化は今後の展開に残されたといえる（各地からの情報発進と二本立の事務局体制の機能的展開が期待される――私自身、皆さんへ後日、詳細をレポートしたいと思う）。

さて、環瀬戸内海の環境問題の象徴として押し上げてきた豊島問題が、本会議のメインとなり、新しい取り組みが現状をふまえ、山田國廣さん、湯浅一郎さんの講演の中でも生かされた。

20数年の闘いの結果としての産廃の後処理問題という悲惨さと、豊島が発進する情報のゆたかさを共有財産として、豊島に何ができるか、我々に何ができるのか。石井・豊島住民会議事務局長の報告をうけるかたちで、今総会現地事務局の小西さんから、特別決議が提案され採択された。また、阿部代表から二日間の議論を通じて、阿部代表を中心とした瀬戸内法のプロジェクトの行動取組みが提案され了承された（今後、経過は報告されると考えますので、乞御期待！）

立木トラスト、立木バンクの大いなる可能性に確信をもちつつ、課題に果敢に挑む環瀬戸内海会議の今後の展開が、これからの六年をより鮮明に浮かびあがらせるものとなることを祈りたい。



総会で相次いだ「ゴミ処分場問題 現地の声・豊島住民会議からも」  
**豊島に学び、共に解決の道を探ろう**

**産廃不法投棄の香川・豊島ルポ**

**回復ほど遠い「ごみの島」**

76.7.7  
 中国新聞

一面に広がるごみと黒く濁った水。腐敗臭……。産業廃棄物の不法投棄が続く、「ごみの島」と悪名をさせている香川県小豆郡土庄町の豊島(てしま)の現状は、予想以上にひどかった。フランスや中国の核実験への抗議行動や環境保護運動などで知られる国際環境保護団体「グリーンピース」が三日行った現地視察に同行、タイオキシンなどの有害物質が検出されている汚染の現状を見て、現状回復を求める住民の声を聞いた。



産業物の山の横で、住民が汚染の現状を聞くグリーンピースのメンバー



玉野市の宇野港から出航し、東へほぼ十キロ。小豆島と直島の間にある島の北側の家島港から上陸し、産業物対策豊島住民会議(安岐町)で視察メンバーの案内で細い道を縫うように抜けて現地へ。

約二十秒の広い敷地。表面には白い砂がかけられ、野焼きされて放置された車の残がいや、廃棄物がむき出しになっている。腐敗臭

**一面に放置 水も汚濁**

**土中で発酵? 悪臭に頭痛**

見ただけではあまり感じに慣れて気にならなくなる。しかし検査や視察などのため数回掘り返された穴をぞくと、下には

国が穴を掘って水位や温



風光明媚な瀬戸内海が望める海辺には、どす黒い水たまりが400メートル続いている。

解説する。

海辺には、城を囲む堀のように、どす黒い水たまりが海に沿ってほぼ四百メートル続いている。水の汚染がひどく、海への流出は危険と指摘されながら、土のうが積み重ねられているだけで、根本的な対応とはほど遠い。

グリーンピースのメンバーも「非常に危険で、緊急の対策が必要。土に戻さない」と悪くなる一方」と想像を超す汚染と放置されたままの現状に驚く。

住民には、不法投棄にかかわった業者のほか、管理できなかった行政への憤りが強い。石井さんは「住民の求める現状回復には県の責任が重大。県に委任事務をさせていた厚生省にも何らかの責任はあるし、もちろん業者の責任が大前提だ」と語気を強め、「恐ろしく全国で同じことが起きて」と付け加えた。

《豊島》瀬戸内海国立公園内にある島には約千五百人が住む。住民側は一九九三年十一月、産業物の全面撤去などを求めて公害紛争処理法に基づく調停を申請。現在、国の公害調整委員会が調停が進行中。同委などの調査では、猛毒のダイオキシンや鉛などの有害物質が検出されている。

ワイドおかやま

# 産廃を受け入れて10年...臭う水

高松市植田町 宮本和人

私たちの住む高松市西植田町は、市南部に位置し、緑の山々と多くのため池があり、自然に恵まれた人口2千3百余人の農村地帯で、高松市の水道の水源地でもあります。

ところが、最近、井戸水の汚染や池の水が臭うとか報告され、住民の不安がつのるばかりです。池の上流域で昭和61年から産業廃棄物の最終処分が始まり10年が経過し、第3期工事の許可がなされようとしております。

先日、平成8年4月12日に、この処分場で早朝火災が発生し、消火にかけつけた消防団員や住民が現場を目の当たりにし、「これはひどいのお」とか「何とかせないかんののお」との声を聞き、豊島の例もあり、第2の豊島にならないようにとの思いも強く、住民運動の機運も高まる中、私は、環境保全住民会議の発足に向け鋭意取り組んでいるところであります。

私は、今回、オーリーブコープ環境委員会のスタッフの方にご紹介いただき、初めて、瀬戸内海会議に参加させていただいたわけですが、徳島、愛媛はもとより、山口、広島等、瀬戸内海沿岸の自然を守ろうとする多くの方々が自然破壊と生活環境の悪化を阻止するために、真剣にとりくんでいる姿に深く感銘を覚えると同時に、敬意を表したわけであります。

また、常日頃、当たり前のように自然の恩恵に浴しておりますが、日々汚染されつつある身近な自然に関心であったことを恥ずかしく思いました。

この会議で知り合った方に「立木トラストって何ですか」と質問し、一株株主のように立木一本一本に権利を設定し、開発に歯止めをかける方法であると、初めて知ったわけですが、自然を大切にと思う多くの方々の善意でゴルフ場開発やゴミ処分場建設阻止に取り組んでおられる方々の活動に、頭の下がる思いでいっぱいです。

今後においては、住民運動の輪の広がりにより、各地で「環境保全住民会議」的組織ができ、これらのネットワークを通じて、行政も住民も納得のいく方法を、共に知恵を出して見出し、産業廃棄物・ゴミ処理問題に取り組み、緑豊かなふるさとを守っていかねばならないと思います。

# 「日本のエーゲ海・牛窓」にゴミ捨て場はいらない!

岡山県牛窓町・産業廃棄物を考えるつどい 窪田聡

県内を九つにわけた地方振興局ごとに公共関与(第三セクターの県環境保全事業団が事業主体)産廃処分場を建設する——その計画のトップを担った岡山地方振興局の産廃処分場候補地に設定されたのが、牛窓町弥井田(ねた)・横谷地区だ。計画では、面積20ヘクタール、埋立量100万トン、期間10年。

牛窓町は正面10km弱に小豆島が横たわる、瀬戸内に面した農漁業を主とする人口8,400人を切る過疎の町。近年「日本のエーゲ海・牛窓」をキャッチフレーズに観光振興にとりくみ、民宿のほかホテルやペンションもふえてきている。

\*

1995年6月の県議会で知事が計画を発表。私たちはただちに「産廃処分場を考えるつどい」を結成し反対運動をくりひろげた。①町づくりの方向性に逆行②受け入れの理由「応分の負担」に説得性なし③安全性に保証なし④美しい自然を残す——が反対の理由だ。

95年7月=映画「水からの速達」上映会。昼夜二回 250名。8月=産廃処分場を考える町民のつどい。100名。8~9月=反対署名。町内5,463票(人口の66%)・町外8,937票・計14,400票。10月=共同声明発表。ペンション村オーナー会など15団体。96年5月=予定地ハイク「弥井田遊訪」。

この間随時「考えるつどい」例会をひらき「さんばい通信」を発行した。通信は新聞折り込みで町内全戸に。立看板設置八か所。「弥井田写真展」数回。

\*

町長は当初、産廃処分場の受け入れは「住民の理解が得られれば」の条件つきと明言。その後も「住民の反対が多ければ返上」「地権者がひとりでも反対なら計画はすすめられない」などと発言。しかし、反対署名が人口の過半数を超え、町が町内各所でひらいた説明会でも「理解が得られなかった」現状が確実に存在する。町長発言が彼ら自身をがんじがらめにしている。

で、いま県・町がすすめようとしているのは、「住民により理解していただく説明資料を用意するための環境アセスメント実施」だ。子供だましの手法、いや、お役所特有のごまかし・実績づくりの手法、といえよう。

断固粉碎!だ。一年半後にふたたび説明会をひらくという。それを待たずに町民のより強固な反対の輪をつくりあげていきたいと思う。

「窪田聡さんは『かあさんの歌』—かあさんがなべをし手袋編んでくれた—の作詞作曲をした人なんだって!」といわれてびっくり。もうずっと昔の人かと思っていた人は多い。現存の人で若く、アーティストらしい風ぶうの窪田さんたちの会報や運動は芸術的な味わい。「かあさんの歌」のように運動の輪も広がっています。(あ)岡山総会で。



となりの町からゴミが！

## 岡山県吉永町の「産廃処分場」問題

吉永自然といのちを守る会・鶏川克巳

町議会のリコール、出直し町議選へと発展した岡山県吉永町の産廃処分場問題、新議会は「絶対反対、絶対阻止」の決意を進出予定の第三セクター編成町の長船町や県に申し入れたが、県は「趣旨は理解するが、このままでは法律に従って対処するしかない」と一歩も引く姿勢はありません。

### ■ 処理場計画はどこまで進んでいるのか

平成4年11月吉永町に処理場設置の申し出があつて以降、問題が表面化した平成6年には、県への申請手続きも終わり、「法的には不満はない」とされており、あとは県がいつ認可するかという、吉永町にとって厳しい状況にあります。

### ■ 産廃問題は降って沸いた話か

町議会の資料では、処理場の申し出のあつた平成4年11月には、長船町との第三セクターの話は進んでいると書かれています。しかし着工へ向けての手続きが進められる中で、町民にはその内容は知らされて来ませんでした。

### ■ 産廃処理場が県主導なら安全か

県関与の処理場なら安心との話がありますが、香川県豊島を教訓にするなら、処理場が県主導であるということで安全性が確保されるものでは決してありません。

大事なことは、計画について町民が具体的な内容を知り、チェックすることです。

### ■ 「絶対反対」だけで住民の命と健康は守れるか

法的手続き上問題がないとなれば、第三セクターは県を訴えることも考えられます。県はそれを避けるために、吉永町に事前協議のテーブルに着くようしきりに働きかけていますが、吉永町は拒否し続けており、訴えられれば県は認可せざるを得ず、その時に「絶対反対」だけでは止まるとは思えません。

一刻も早く具体的計画を知り、問題点を浮き彫りにすることで、生活の安全、環境保全を確保できるか否かを明らかにしていく作業が必要です。

### ■ ゴミ問題に対する私達の姿勢が問われる

長船町が吉永町にゴミを持ち込むことは許せません。しかし、吉永町はゴミ処理を他町に頼っており、産廃の行方にはほとんど無関心です。その意味では、長船町のやり方を一方的に非難するのは、筋が通らないでしょう。

私達は、今回の問題を契機に、ゴミの減量、町内のゴミは町内で処理するという行政施策とともに、町民一人一人の「自らが出したゴミは自らか責任を持つ」という自覚を培っていくことが必要と考えています。

# 「うそのような事実」 — しゅんせつ土砂の海洋投棄 —

広島県瀬戸田町(高根島) 中田 佳子

「ありゃあ何んかいねえ... 何ができよんかの...」

こんな会話が島から聞こえ出したのが9月中旬、私たちが昔から海藻や貝類等を取っている場所に、黄色のウキのフェンスが張られてからの事です。やいのやいので町に説明を求め、それでも納得がいかないので、事業主の漁協、施工主の大新土木、町、区で説明会(10月上旬)、「藻場造成による、しゅんせつ土砂の投入」。

区：現在、その場所には藻がたくさんついているんだから今のままでいいじゃないか。  
漁協：状態の良い所だからそこに造るんだ。悪い所に造ったって効果がない。

島の中で反対が盛り上がったのだが、何を考えているのか、行政サイドに立つ島のトップから圧力がかかる。

前町長が十数年かけて作り上げた漁協との二人三脚(これによって道路整備、海の護岸の整備がスムーズに出来た)。では漁業権を一人も持たない高根(こうね)の住民に何ができるか？

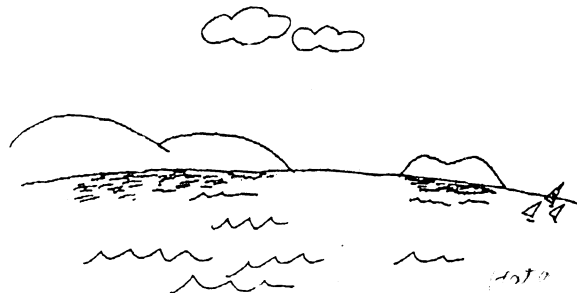
とにかくいろんな情報を集め、阿部さんに巡り合い、電話すると「瀬戸田はサンパイの町ですからね。」と言われた。恥ずかしながら私は「サンパイ」=「耕三寺の参拝」だと思った。間違っても「サンパイ」=「産業廃棄物」だとは思わなかったので赤面した。住んでいる町民に何人そういう意識のある人がいるだろうか。そういう悪い情報は極力、流れないので、何年か前にマイクを持って反対運動をしていた男の人の前を車で通った時には、耳もかさず、冷静な目で通ったのを思い出す。

今、私たちは地元の海だから、一生懸命なのだが、町内の他の地区からみれば、現在も何年か前、私が通りすぎた状態に意識は変わってないのだろう。この藻場造成によるしゅんせつ土砂投入は単発的なものではなく、瀬戸田町がここ十数年、歩んできた産廃埋め立ての続きなのだとようやく気づいた。

今の世の中の構造がさっぱり分からない。この藻場造成工事は国の政策の一環(何だそれは？ 漁場を造るためではないのか?)。運輸省の工事で出た土砂を、人口の少ない場所に持ってきて投入、その対岸の海水浴場で、運輸省が「リフレッシュ広島」とやらで、「瀬戸内海をきれいにしよう!」と呼びかけている。

何やってんの? やってる事と言ってる事が全然違うじゃないか!?

私は国の政策とか難しいことはわからない。ただ、いつになったらこの矛盾に国が気づくのだろう。これ以上、私たちの生活から海が離れないよう、昔のように海と共に生きれるように、微力ながら努力して行きたい。



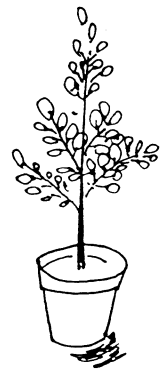
1995年度収支報告書(1995.4.1~1996.3.31)(トラス会計)

収入

費目	収入額	備考
前期繰越	1,348,549	673,003(普通) 78,167(振込) 500,000(定額) 85,600(左島:現金) 6,079(熊本:現金)
立木心ツ伐金	606,390	①1,500×404.26本
受取利息	3,565	元印利息
本代收り	106,960	地球カシヤ×ペーシ
諸カ心	38,372	諸心
合計	2,099,836	

支出

費目	支出額	備考
事務所費	240,000	20,000×12ヶ月
事務用消耗品	3,106	747701L
通信費	37,013	切手等(13,300) 電話代(左島:11,953. 熊本:11,760)
印刷代	4,390	
発送費	4,080	
総会費用	60,000	講師謝礼
地球カシヤペーシ	238,287	文集作成依頼(56,400) 印刷代(173,967) 送料(7,920)
心ツ伐金(199)	292,657	送料(155,950) 封筒印刷(38,985) 印刷代(77,765) 9772-1L(19,919)等
立木心ツ伐金	109,630	立木代金(108,340)等
副代表者会議	7,300	会議室使用料(7,300)
合計	996,463	
次期繰越金	1,103,373	272,568(普通) 229,287(振込) 500,000(定額) 43,358(左島:現金) 58,160(熊本:現金)



1995年度収支報告書(1995.4.1~1996.3.31)(一般会計)


収入

費目	収入額	備考
前期繰越	20,838	
受取利息	1,048	
会費収入	80,000	①5,000×16
合計	101,886	

支出

費目	支出額	備考
総会費	23,840	案内発送費(8,000) 切手(11,840) 印刷代(4,000)
副代表者会費	52,640	旅費半額補助(延べ10名分)
三歩外費(会費)	9,120	廃棄物処分費(177(4,060) 317(4,060) 総会(5,000))
合計	85,600	
次期繰越金	16,286	12,740(普通) 3,546(現金)

証憑類もよくととのえられ、記帳も正確であらう。以上を報告いたします。

監査 岡山市宿 423-19 前田俊英 

(広島事務局から)

昨年は、大震災という悲しいことからの出発からですが、神戸の畑さん、香川の三木さんの大奮闘で被災者に立木を送ろう！という立木ボランティアに取り組むことができました。トラストニュースでの呼びかけで全国からの支援がありましたが、時が経って神戸近辺からのカンパが最近まで続きました。落ち着いてこられたのか、ひとごとでないから被災を目の当りにした、或いは経験した方々の想いは特別なのでしょうか？ステキな提起型の行動がお手伝いできて事務局としてもうれしく思っています。船木さんが熊本に行かれて心もとない広島の事務局でしたが、今回東京神戸に加え、松山、岡山にも事務局ができて心強いかぎりです。代表の阿部さんも元気いっぱいです。オーナーの方々もぜひこれを機会に個人会員になってくださ～い！ (藤井)

## もくじ

立木ボランティアの1年をふりかえって	(神戸事務局) 畑 英理	1-2
オーナーのみなさんありがとう！ふるさとゴルフ場阻止	(ふるさと大島の自然を愛する会) 河村保郎	3
総会レポート「これまでの六年とこれからの六年」	(地域開発と自然を考える住民の会) 山本安民	4
産廃不法投棄の香川・豊島ルポ	中国新聞記事('96.7.7)より	5
産廃を受け入れて10年...臭う水	(高松市) 宮本和人	6
「日本のエーゲ海・牛窓」にゴミ捨て場はいらない！	(産廃処分場を考える会) 窪田 聡	7
岡山県吉永町「産廃処分場」問題	(吉永自然といのちを守る会) 鶴川克巳	8
「うそのような事実」-しんせつ土砂の海洋投棄-	(広島県瀬戸田町) 中田佳子	9
'95年度会計報告	事務局	10

## 編集後記

暑い夏です。皆様お元気ですか。0-157が猛威をふるい、人の体と食べ物と、それを生み出す自然に何か起こっているのだろうかと考えさせられます。つい目を奪われてしまったオリンピックの華やかな舞台は、現実の世界から遠い世界の出来事ではありません。

愛媛では伊方原発沖にA級の活断層が見つかり、2000年毎に迎える活動期に入っていることが明らかになりました。こちらも活断層上だといわれながらも進行する神戸空港の計画、トンネルや橋をかける紀淡海ルート、豊予海峡ルート、さらに岩国基地拡張にともなう215kmの埋め立て計画と、瀬戸内海の大規模公共プロジェクトが目白押しです。神戸震災の教訓はいかされることもなく、私たちはますます、深い不安の時代を生きるのでしょうか。

岡山の第7回総会は、廃棄物問題が多くの現地から報告されました。特に豊島(香川県)からはダイオキシンなどの汚染による深刻な現状と、22年におよぶ島ぐるみの運動が報告され、私たちの会も、瀬戸内海の問題として積極的に取り組むことになりました。「豊島基金構想」などもあり、ゴミ問題を行政の問題とともに、私たち自身の問題としていくための取組を始めたいと思っています。

不安と混迷の時代、このような時代だからこそ、私たちは一方で、すばらしい方々に会うことができます。現地で運動を続ける人、全国のオーナーの方々、その出会いとつながりの中にこそ、希望があるのだと確信しつつ。(阿部)

瀬戸内トラストニュース 第10号

1996年8月15日発行

「環瀬戸内海会議」代表 阿部 悦子 ☎794 今治市別宮町 9-7-4

TEL (0898)32-0100

広島事務局「森と水と土を考える会」☎733 広島市天満町 9-8

TEL・FAX(082)296-1444

(1部 100円)